

地域高齢化に対応する「情報」の発信源

⑩ 城西病院 (東京都杉並区)



外来や入院だけでなく、在宅療養や通所リハビリテーションにも注力。杉並区で唯一の糖尿病教育認定施設としても知られる

新 宿から電車で10分。荻窪駅はJR中央・総武線と地下鉄丸ノ内線が乗り入れるターミナル駅だ。城西病院はそこから徒歩で8分ほど。環状8号線と青梅街道が交差する四面道交差点際にある。アクセスはまさに至便といっていいい好環境だ。

「当院は1949年に私の祖父が開院。その後を父が継ぎました。私が理事長を継承したのは昨年の6月です。ハード面の整備は一応完了したといえます。私が一番気にしているのは医療の中身、ソフトです。旧態依然とした医療提供ではもはや通用しない。簡単にいえば、どれだけ受診者を満足

させられるか。ソフトの充実については日ごろから意識をしています」(玉城成雄理事長)

一般病棟50床、医療療養病棟49床のケアミックス病院と健診部門を担う予防医学本部、これに付属施設として通所リハビリテーション、在宅サポートセンターを併設している。

「地域の高齢化に伴う患者の受け入れが最大の課題。大規模な医療機関とすみ分けをしながら、高齢患者を積極的に診療していきたい」(同前)

病院の機能としては、①個人に応じた適切な医療により、最適な医療を提供する外来機能②高



開院当時から使われてきた看板。地域に根差した病院の歴史を感じさせる



特別室。一般の個室よりもゆったりとした空間。天窓が開閉可能。院内は間接照明が主体



健診センター。予防医療の観点から健康診断には早期から取り組んできた。予防・糖尿病・高齢者の3分野をつなぐ医療を提供



城西病院附属クリニック通所(リハビリセンター)。理学療法士が個別に運動療法を行う



訪問看護ステーション



1階ロビー。ホスピタリティコンサートもここで行う。手前が「ベビシュタイン」

度急性期後の医療に迅速に対応できる入院機能③在宅療養支援病院④疾病(生活習慣病)の予防機能——の四つの柱を持つ。この4本柱は全職員の共通認識。全ての職員がこれらの機能を明確に意識し、今何をすべきなのかを自ら考えて行動する。その上で地域に信頼される病院を目指している。

「大学病院に在籍していたころは最先端の医療ばかり手掛けてきました。ハードは満たされている。治療の結果、良くなれば患者さんが満足する。これが標準的な医療だと思っていました。しかし、当院には慢性期の患者さんも多い。高齢化の中

で徐々に衰弱していくご本人やご家族にも満足していただける医療を意識しています」(同前)

新築・移転を機にクラシック音楽の無料のロビーコンサートを定期的に開催してきた。題して「ホスピタリティコンサート」。地域住民に良質の文化を発信している。1階待合室の隅には、ドイツの名器として知られる「ベビシュタイン」のフルコンサートグランドピアノが設置されている。

このコンサートも今年で10年目。バイオリンや声楽、ピアノ連弾、弦楽四重奏など、バラエティーに富んだ内容で町おこしにも貢献している。